

— 岩手県立博物館テーマ展『比爪-もう一つの平泉-』パンフレット12頁 —

3 比爪-奥州藤原氏第二の拠点- ② 周縁遺跡

◀ 栗田Ⅲ遺跡（紫波町上平沢字東馬場）(2) ▶

居館の建物などは明確にされていませんが、「第3群1号建物」が、その平面プランから12世紀に属する可能性が高いと考えられます。この他に堅穴建物「Bc74堅穴」も12世紀の建物と考えられます。12世紀の遺物の出土状況は散在する状態で、近世以降の溝などに紛れての出土であり、近世屋敷の造成により、12世紀の居館の遺物、遺構は損なわれている状況と解釈されます。

このように遺構も遺物も良好な状況ではありませんが、格式の高い儀式用の器であるかわらけを使用し、さらに出土遺跡が限定され、平泉等でも出土量が決して多くない水沼産陶器を所持している栗田Ⅲ遺跡の居館の住人は、それなりの高位の者であったと考えられます。このようなことから、栗田Ⅲ遺跡の居館は紫波郡西部の拠点的な居館と想定されます。比爪館から栗田Ⅲ遺跡は直線距離で4.8km離れています。

◀◀◀ 2～3月行事予定のお知らせ ▶▶▶

<p>2月15日 (水曜日)</p>	<p>第79回月例発表会</p>	<p>午後7時から午後9時まで 赤石公民館 発表者：旗福 晴子(恋むらさき) 小笠原悦子(おおむらさき) 大沢斗志子(こむらさき) テーマ：講談 義経シリーズ 発表者：高橋 敬明 テーマ：全国の「ひづめ」姓について —中村雅明さん調査資料による—</p>
<p>3月22日 (水曜日)</p> <p>※ 紫波町教育委員会事業と日時重複のため 予定を一週間繰り下げました。ご注意ください。</p>	<p>第80回月例発表会</p>	<p>午後7時から午後9時まで 赤石公民館 発表者：金 濱 興 一 テーマ：(未定) 発表者：(未定) テーマ：(未定)</p>

お知らせ：平成28年度紫波町発掘調査報告会(紫波町教育委員会主催)が、3月15日(水)午後6時から紫波町中央公民館で開催されます。比爪初代清綱に関連する可能性もある大銀Ⅱ遺跡が中心になると思われますが、詳細は次号でお知らせします。

— ◆ — ◆ — ◆ — 会 員 投 稿 — ◆ — ◆ — ◆ —

1月14日に開催された赤石公民館歴史講座「比爪館を生かしたまちづくり」を聴講。講師の八重樫忠郎さん今では平泉町の町づくり推進課長。それでも衰えない久しぶりの忠郎節に酔う感じで、学校教育のなかに「平泉学」を組み込む活動に感銘。「比爪を世界遺産」の夢を語るのであれば先ず国指定を。その気になれば2～3年で実現の可能性はある。と、力強い言葉「こんな人、紫波町にもほしい。」と、皆がいつものパターンに。懇親会の後に中央駅のイルミネーションを觀賞し、紫波の地酒4種を飲み比べお帰りとか。願う。お元気で変わらぬご指導を！

☀ ☀ ☀ 比爪館跡の発掘調査 No.37 ☀ ☀ ☀ ☀ ☀ ☀ ☀ ☀ ☀ ☀ ☀ ☀ ☀

比爪館跡 第28次・第29次発掘調査報告書 <紫波町教育委員会(平成25年3月発行)>

【比爪館遺跡 第29次発掘調査】 ～ 一部抜粋 ～

2 調査の概要 (4頁)

(1) 過去の調査

当遺跡は、奥州藤原氏の一族比爪氏の居館跡として周知の所である。考古学的な調査は、1965年の板橋源氏(岩手大学)の発掘調査を始まりとし、第1次調査から第5次調査まで実施している。その後、紫波町教育委員会が主体となり、遺跡の範囲確認調査や開発行為に伴う緊急発掘調査及び試掘調査を、第27次調査まで継続して調査を実施している。

これまでに検出された遺構は、掘立柱建物跡23棟、竪穴住居跡69棟、土坑176基、溝跡44条、井戸跡35基、陥し穴27基、焼土遺構・その他12基、柱穴多数などである。

(2) 調査に至る経過 (5頁)

【Ⅰ・Ⅱ区発掘調査】

平成23年7月22日付け、紫波町建設部下水道課長から比爪館跡地内にかかる公共下水道污水管渠(9028線)管路施設工事について協議があった。

平成23年9月26日から10月31日までの予定で道路通行制限許可を得、平成23年9月26日から発掘調査を開始した。

【Ⅲ区発掘調査】

平成24年4月18日付け、箱崎武氏から文化財保護法第93条第1項による埋蔵文化財発掘届の提出があり、前記Ⅱ区に継続して下水道污水管埋設工事による事前発掘調査を行うことになった。

調査は、平成24年4月23日付 岩手県教育委員会から回答文書により、箱崎武氏と協議の上、平成24年5月7日から調査に入った。

4 第29次調査Ⅰ区・Ⅱ区 (10頁)

(3) 調査のまとめ (18頁)

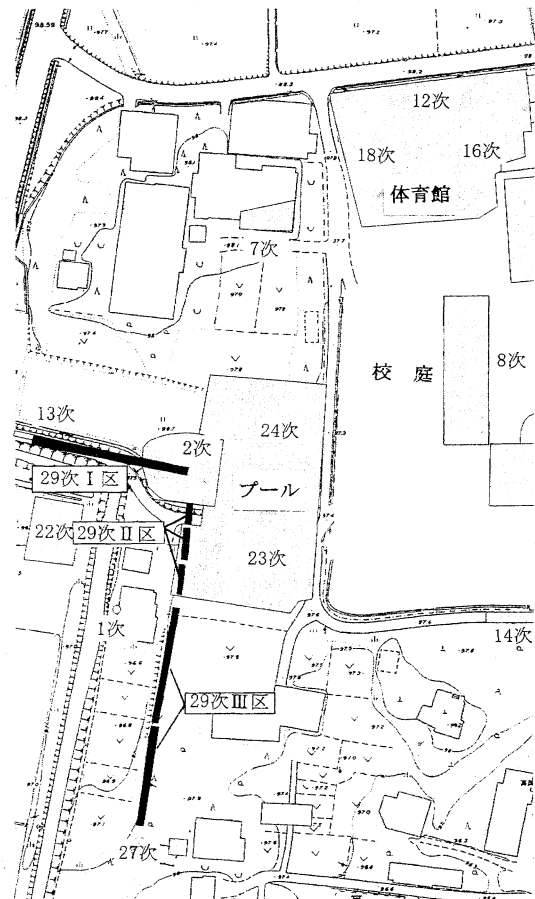
比爪館跡は、第28次調査(平成21年度)まで実施して来たが、館跡の西側と思われる区域は、ほとんど調査が行われていなかった。第29次調査(Ⅰ・Ⅱ区)では、下水道管設置に伴う狭い範囲であるが、館跡の西側の調査を行うことが出来た。しかし、調査面積が限られ全体像を把握する事は、残念ながら出来なかった。

今回の調査では、土坑跡、井戸跡、大溝跡、焼土遺構跡、柱穴などの遺構を検出し、かわらけがコンテナ2箱分、中国産磁器、木製品などの遺物が出土した。今回検出した遺構の時期は、土坑跡、井戸跡、溝跡等出土遺物の状況からみて、12世紀後半の所屬と考えられる。焼土遺構、柱穴は出土遺物がなく正確な時期は不明である。

5) Ⅰ区 SD-018溝跡(大溝)

大溝の精査は、検出面から約1.5m掘り下げた時点から、表土側面が亀裂と内側に膨らみ崩落の恐れが生じた為、安全面を考慮し精査を中止し埋め戻しをした。これまでの西側大溝の調査では、内側の掘り込み面は検出されているが、外側の掘り込み面はいまだ未確認である。今回の調査でも、館跡内側から西に向かってなだらかに落ち込み、水分を多く含む粘土層になるが、溝跡の外側の掘り込み面の壁は確認出来なかった。

今後、館跡を区画する西側大溝跡を確定には、館跡西側を南北に通る町道との間の調査が必要であり、何らかの機会を捉えるまで時間を要する。



比爪館跡第29次調査区域図